

4年2組 特別活動(学級活動)学習指導案

指導者 奥原辰政  
場所 体育館

1 グループ(4年生)の実態 ※AFPYの参加者把握の手法

(1) 目標

「よく聞く。よく考える。自分から動く。」が、4年生全体のテーマである。このテーマを、学級活動だけではなく、全ての教育活動で意識して投げかけ、ふりかえっている。

(2) レディネス

運動会や学年全体での行事など、テーマを意識して活動する機会を多く取っており、「よく聞く。よく考える。自分から動く。」というテーマについては、きっかけさえあれば意識して活動・ふりかえりを行うことができる。

(3) 感情

4年生のクラスとしての雰囲気は、どのクラスも仲良く元気であるといえる。しかし、自分中心の世界観から視点を変えることができない児童が多く、周囲の感情を理解して自己の言動を調節するまでには達していない。

(4) 態度

グループが集まるときは、指示をしなくても整列して集まる。教師の目が届いているときはお互いに注意し合ってまとまることができる。活動が始まると、活動の目的を忘れて走り回る児童もいる。反抗的な児童はいない。

(5) 身体

身体能力に障害を有する児童は皆無である。

(6) 背景

家庭環境による問題からか、自己を守るという防衛的な潜在意識からすぐには活動に感情移入ができない児童もいる。また、粗暴な言動を友だちに対して向ける児童もいる。

(7) 発達段階

4年生児童。集団としての約束を教えられて、あらかじめ指示を受けていればそれが実行できる段階から始まったが、4年生になって半年以上経ち、きっかけさえあれば自分たちで行動を抑制することができるようになってきた。しかしまだ、グループとしての自立意識はこれから学んでいく必要がある。

2 授業の実際

(1) 実施について

- ① 対象児童…4年2組(39名)
- ② 日時・場所…平成21年11月10日(火)4校時・小学校体育館
- ③ 学習形態…クラス全体での活動

(2) テーマ 「大切なことは何？」

(3) テーマ設定の理由

4年生児童は、男子68名、女子50名、計118名であり、1クラスの人数は39名以上になる。4年生になってすぐの児童の様子から、「よく聞く。よく考える。自分で動く。」という共通のテーマを設定し、活動を行っている。これまで、社会見学や運動会などを通して、その共通のテーマについて何度もふりかえり、児童自身も意識して活動ができるようになってきた。しかし、自分たちで考えて自分たちから動き出すといった、グループとしての自立という視点ではまだ十分ではない。分かっているけれども動き出せない(動かない)といった、一歩踏み出す意識と勇気が足りないのだと感じられる。お互いが安心していろいろな意見が言い合え、行動を起こすことができる4年生になるためにも、エラー(失敗)を恐れず一歩踏み出すという比喻を含んだ活動を行い、これからの学校生活や児童の成長を支援しようと、このテーマを設定した。

(4) 目標

- (感情)クラスの仲間を意識し、全員で活動することを楽しむことができる。
- (行動)活動の約束を守りながら、自分たちから行動を起こすことができる。
- (認知)「よく聞く。よく考える。自分で動く。」ためには何が大切なのかについて気づくことができる

(5) 活動計画(本時)

- ① 主眼 「失敗を恐れない。」という比喻を含んだ活動にクラス全員で挑戦することで、成功につながる失敗の価値に気づき、失敗を恐れず行動を起こす意識をもつことができる。
- ② 準備物 フリースボール、ポイントマーカー、ふり返しカード

### ③ 学習の展開

活動の内容	AFPY の視点
<p>1 4年生のテーマを確認する。  <input type="radio"/>よく聞く。  <input type="radio"/>よく考える。  <input type="radio"/>自分から動く。</p> <p>2 体ほぐしの活動をする。</p> <div style="border: 2px dashed black; padding: 5px; text-align: center;">めっちゃぶつけ</div> <p>(1) ルールを確認する。            ① みんながオニ            ② フリースボールを相手に当てる。            ③ 当てられたらその場に座る。            ④ フリースボールが手に入ったら復活。            ⑤ 衝突しないように周りをよく見る。</p> <p>(2) 活動をスタートする。</p> <p>(3) 活動についてふりかえる。            ① ルールをよく聞いていたか。            ② どんなことを考えていたか。            ③ 自分はどう動いたか。</p> <p>3 今回の活動「シークレットコード」をする。</p> <div style="border: 2px dashed black; padding: 5px; text-align: center;">シークレットコード</div> <p>(1) 活動の内容を知る。            ① 岸から岸へ川を渡る物語り。            ② 川には杭（ポイントマーカー）が打っており、杭を踏み渡って進む。</p> <p>(2) 活動のルールを知る。            ① 全員が渡り終わることが活動の目標。            ② グループ（5人程度）ごとに挑戦する。            ③ 杭には順番があり、踏み間違えると岸に戻り、グループが交替する。            ④ 前後左右の杭を踏むことができる。</p> <p>(3) グループを確認してスタートする。            ① 5人組を作る。            ② グループの順番は自分たちで決める。</p> <p>4 事後のふりかえりをする。</p> <p>(1) 全体でのふりかえり。            ① 何か嬉しかったことはありますか。            ② 何か気が付いたことはありますか。</p> <p>5 個人のふりかえりをする。</p> <p>(1) ふり返りカードに記入する。            ① どんなことを感じましたか。            ② どんなことが分かりましたか。            ③ これから自分が気をつけようと思うことは何ですか。</p>	<p>C テーマを確認することで自分たちの目標を意識し直し、学習としての活動へ気持ちを切り替えることができる。</p> <p>T 児童からルールについて質問が出たら、その都度全体に返しルールを確認して（作って）いく。</p> <p>T 感情が抑えられないほどエキサイトしている児童がいたら、全体を止めて安全を確認する。</p> <p>T 友だちに積極的に関わろうとしていた児童の行動（フリースボールを友だちに渡し、助ける等）を取り上げて評価することで、人との関わりについて意識させる。</p> <p>C 物語として内容を理解することで、活動への意欲をもつことができる。</p> <p>T グループで挑戦するが、全員が渡りきることが目標で、そこに学びの比喩がある。</p> <p>C 自分たちのテーマを意識することで、5人組の構成を工夫することができる。</p> <p>T 他のグループを応援する言動について把握しておき、事後のふりかえりにつなげる。</p> <p>T 児童のふりかえりを通じて、エラー（失敗）を繰り返してゴールまでたどり着いた事に気づかせ、失敗の大切さを意識させる。</p> <p>T 時間内にふりかえりが無理ならば、事後の課題にしても構わない。ふりかえりシートへの評価（返事）は必ず肯定的な言葉で返す。</p>

### 4 評価

- (1) ルールを理解して活動することができたか。
- (2) 意識（集中力）が自分自身からクラスへと変化することができたか。
- (3) これからの自分を考えてふりかえることができたか。

## 5 考察

### (1) 指導について

クラスの人間関係づくり「学級作り」の授業をした。活動に含まれる比喻に気づくことで、お互いの関わり合い方を考えるという授業だったが、子どもたちの反応は良く始終楽しく活動ができていたと思う。楽しさばかりでは学びにならないのだが、気づきを誘発する発問とタイミング、そして「間」を大切にしていくと、どうしても時間がかかってしまう。1時間でまとめる授業としては、不完全燃焼で終わってしまった感じはする。数日後に再び授業を行い、課題解決活動を完結し、ふりかえりまで行うことができた。このふりかえりを「生きて働く力」にするには、日々の生活の中で繰り返し意識させる必要がある。この活動でこだわっていることは「結果を焦って”子どもの学び”を奪わないこと」である。自分で考え自分で動き出せる子どもを育てていきたい。

### (2) 成果と課題

人間関係づくりの活動を通して、子どもたちは「みんなで何かをすることの難しさと楽しさ」に気づき始めていると思う。それを感じることでできる環境（活動のために準備された環境）でできないこと・感じないことは、日常生活でできるわけがない。考え方・動き方・感じ方の練習（インプット）があって、初めて生活で応用できる「生きて働く力」になっていく。

4月当初の4年生は本当に幼く、指示を守ろうとするよい子ではあったが自己中心的な言動が目立つことも事実であった。しかし、それ以降の学年活動や学級活動、そして遠足や運動会などの学校行事を通して、「よく聞いて・よく考えて・自分から動く」ことを意識して行動する子どもに育っていることは間違いない。

これからのテーマは、「自己治癒力のあるグループ作り」であろう。整えられた環境や与えられた指示のもとで課題を解決していけるグループから、自分たちで調整・変更を加えながら課題解決まで進んでいけるグループに成長していくことが、これからの4年生に求められる課題だと思う。

## 6 資料（児童の感想から）

- みんなで力を合わせてやらなきゃ最後までできないことがわかりました。これからはみんなの気持ちを考えながら行動しようと思いました。
- なかよくなればなるほど、楽しくゲームができるということがわかりました。
- みんながみんなを助けているんだということがわかりました。これからぼくは、自分勝手な行動をしないように気をつけます。
- みんなにも優しくしたり、「がんばろう」とはげましの言葉をかけてあげたりしたいです。みんなも今日、いろいろ力を合わせてがんばっていたので、これからもそうしています。
- 失敗をした人をせめたから、今度から気をつけます。
- これからは、いっぱい友だちをふやしたいと思います。だから、親切にしたり、いろいろなことをしてふやしていきたいと思います。